

屋内消火栓ポンプから出火 - 西日本防災システム

平成22年8月 神奈川県内で屋内消火栓設備の加圧送水装置(ポンプ)のモーターが焼損する事故が発生しその原因が特定され、情報が提供されていますのでお知らせ致します。

この火災の原因はモーター内の巻線表面において絶縁劣化が進行し、短絡が発生。同時に加熱焼損に至ったものです。当該ポンプは製造から36年を経過し、2コンタクタ方式のスター・デルタ始動器を使用しており常時モーターに電圧が印加されていたことが絶縁劣化が進行した原因と推定されるようです。

現行基準(加圧送水装置の基準)では2コンタクタ方式は採用しないこととされていますが、(平成9年6月30日 消防庁告示第8号) 告示公布以前に製造されたものについては2コンタクタ方式の始動器を使用したものが設置されている可能性があるとのこと。今回の火災事例から早急に点検、改修を行うことが望ましいとしています。

消火するための設備から出火とは 考えさせられますね

もし古い消火栓ポンプやスプリンクラーポンプをお使いでしたら点検業者には是非確認を！

【 2コン・3コンタクタ方式 】

三相モーターの減電圧始動器ではスターデルタ始動器が広く使われていますが、この始動器には、**2コンタクタ方式(2コン方式)・3コンタクタ(3コン方式)**の2つの方式があります。モーターを保護するためモーターに合った適切なサーマルリレー、モーターブレーカーを選定し、特にサーマルリレーはスター始動時、デルタ運転時とも働くように設置しなければいけません。**2コン方式**は**3コン方式**に比べ小型で経済的であるとの理由で多く使われていますが、モーターを使わない時および運転中、仮にサーマルリレーがトリップした時も主電源を切っておかないと常時モーターの巻線に電圧がかかり、使用環境によっては焼損することがありますので事故のもとにもなりかねません。そのため3コンタクタ方式をお勧めいたします。



西日本防災システム

NISHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd

<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社top pageへ

